

7-8 北陸-近畿および近畿-山陰地殻活動総合観測線における地殻変動連続観測結果 (2000年5月~2001年4月)

**Results from Monitoring Chains of Crustal Activities in Kinki and Hokuriku District (May 1, 2000-April 30, 2001)**

京都大学防災研究所・大学院理学研究科

Disaster Prevention Research Institute and Graduate School of Science, Kyoto University

北陸-近畿および近畿-山陰の両地殻活動総合観測線を構成する観測点のうちから、第1図に示す六甲鶴甲、上宝、天ヶ瀬、逢坂山、由良、紀州および屯鶴峯の7点で観測された最近1年間(2000年5月~2001年4月)の地殻ひずみを第2図から第6図に示す。一部の観測点では、傾斜および併行観測をしている雨量、気圧も示す。

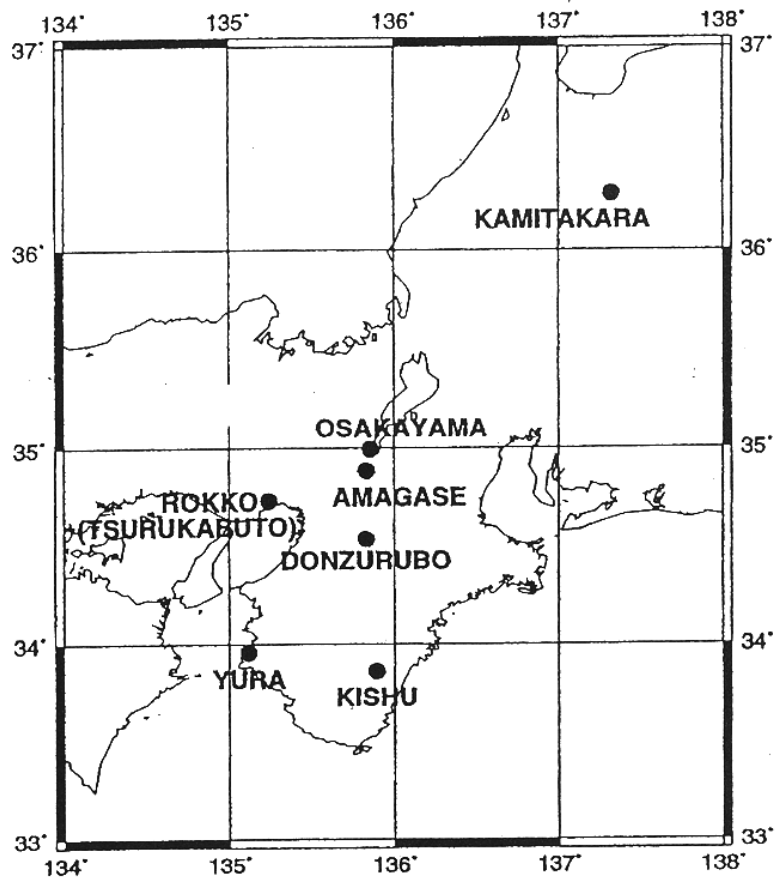
この期間には、鳥取県西部地震を含むが、その時のひずみステップについては前号にて報告した。<sup>1)</sup>震源に最も近い六甲鶴甲では地震後の記録に余効的な変動がみられる。なお六甲鶴甲では、避雷対策の結果、途中で感度に変化している。スケールは当初の感度であり、グラフは暫定的に変化後の補正がされていないものを示している。潮汐変化が明瞭でない部分は「not to scale」で定性的変動のみをご覧いただきたい。

プロット値は基本的には時間値であるが、天ヶ瀬のみ分値プロット(秒値平均)であり各地震時の歪地震動が明瞭に記録されている。

季節変化のパターンは、降雨により左右されるが、この1年は、梅雨期よりも秋の雨のほうが支配的であったのが多くの観測点の特徴となっている。由良、逢坂山では、秋の雨によるスケールアウトで、テレメータ記録上では欠測が生じた。(文責 大谷 文夫)

参 考 文 献

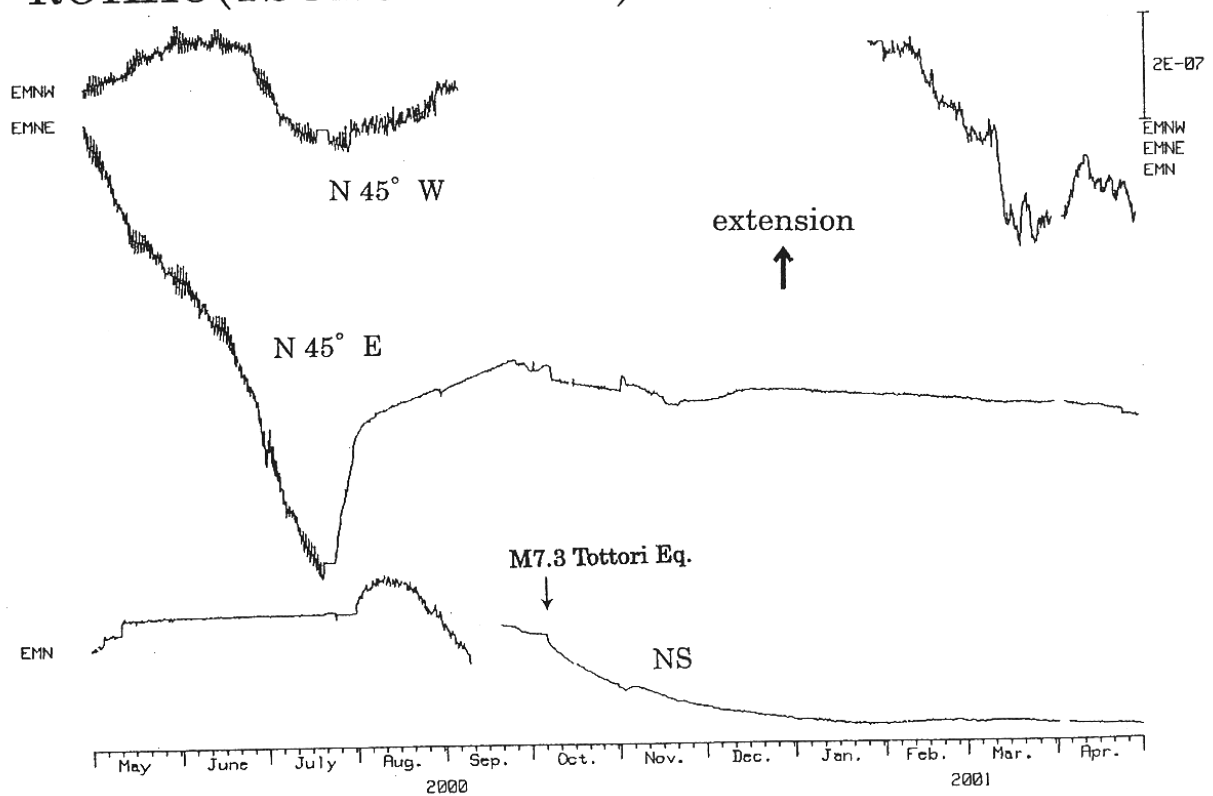
- 1) 京都大学防災研究所 (2001): 鳥取県西部地震に伴って伸縮計で観測された歪ステップ, 地震予知連絡会会報 Vol65, pp.623 - 627.



第1図 観測点の位置図

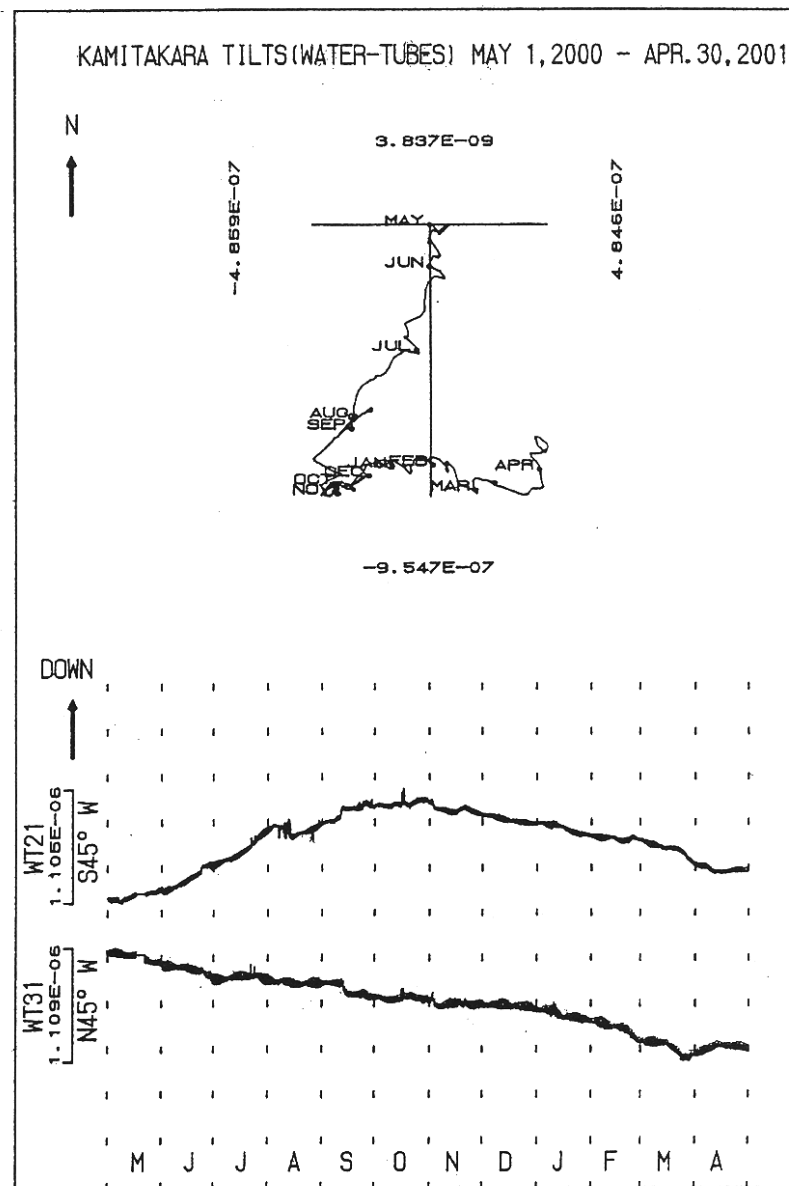
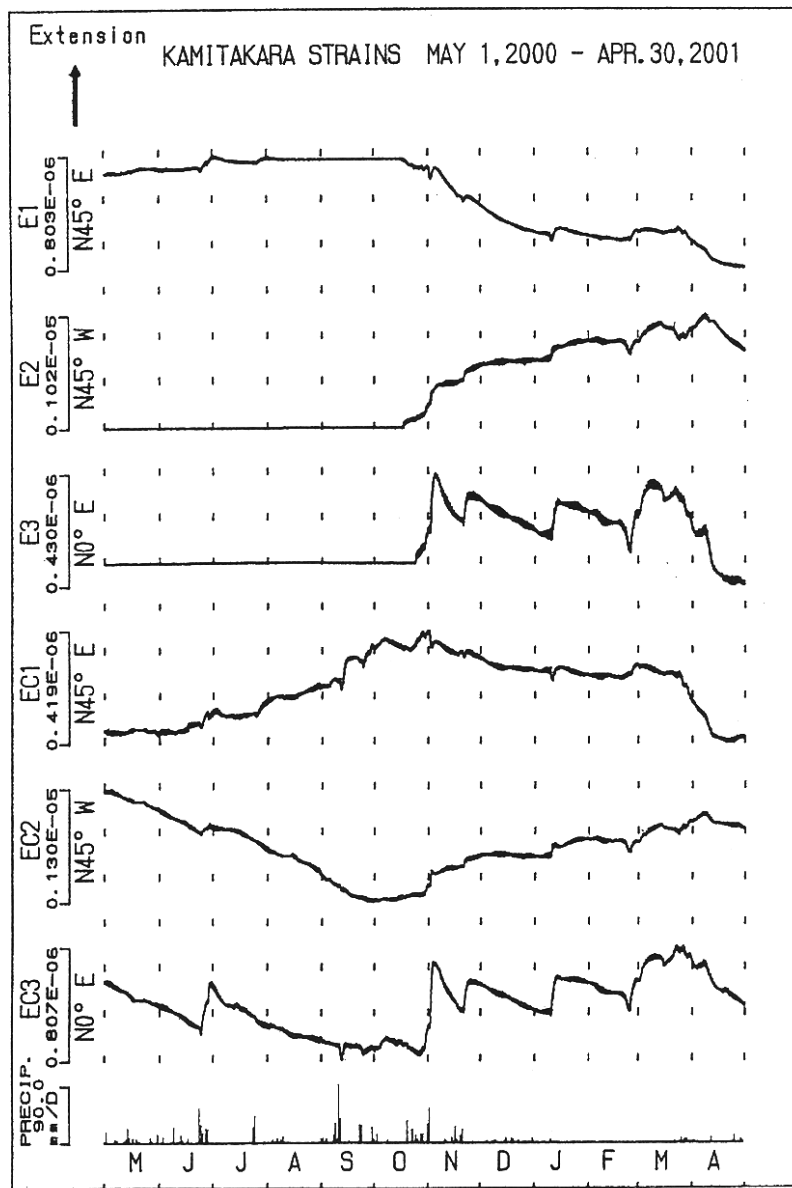
Fig.1 Observation stations.

## ROKKO(TSURUKABUTO)



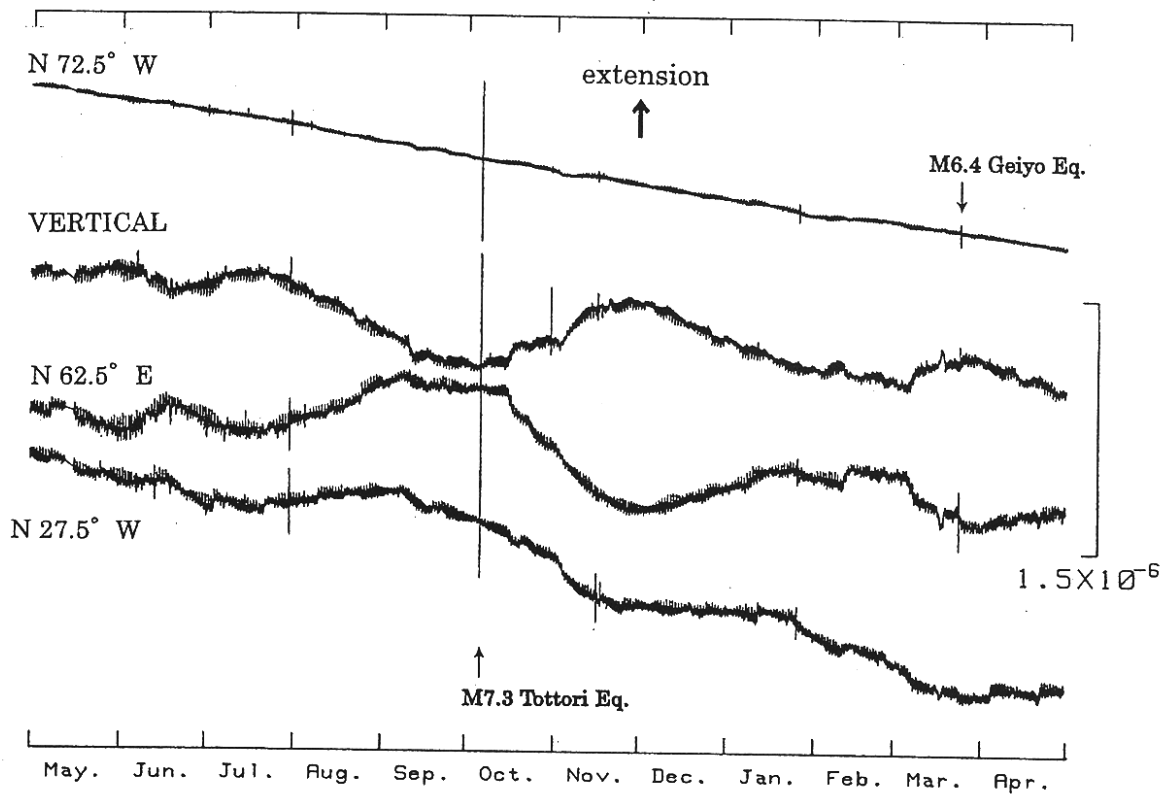
第2図 六甲鶴甲におけるひずみ変化 (2000年5月~2001年4月)

Fig.2 Strain change at Rokkotsurukabuto (May 1, 2000 - April 30, 2001).

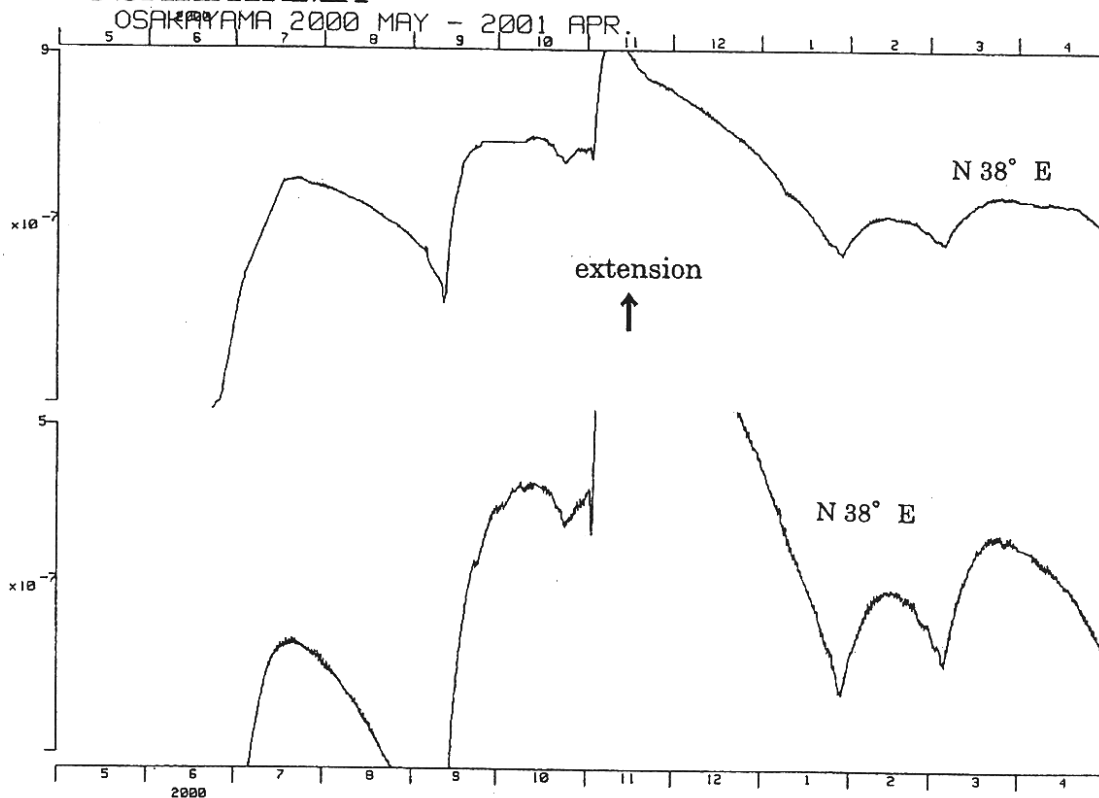


第3図 上宝 (蔵柱) におけるひずみ・傾斜変化と日雨量 (2000年5月~2001年4月)  
 Fig.3 Strain change, tilt change and daily precipitation at Kamitakara (May 1, 2000 - April 30, 2001).

# AMAGASE from May.2000 to Apr.2001

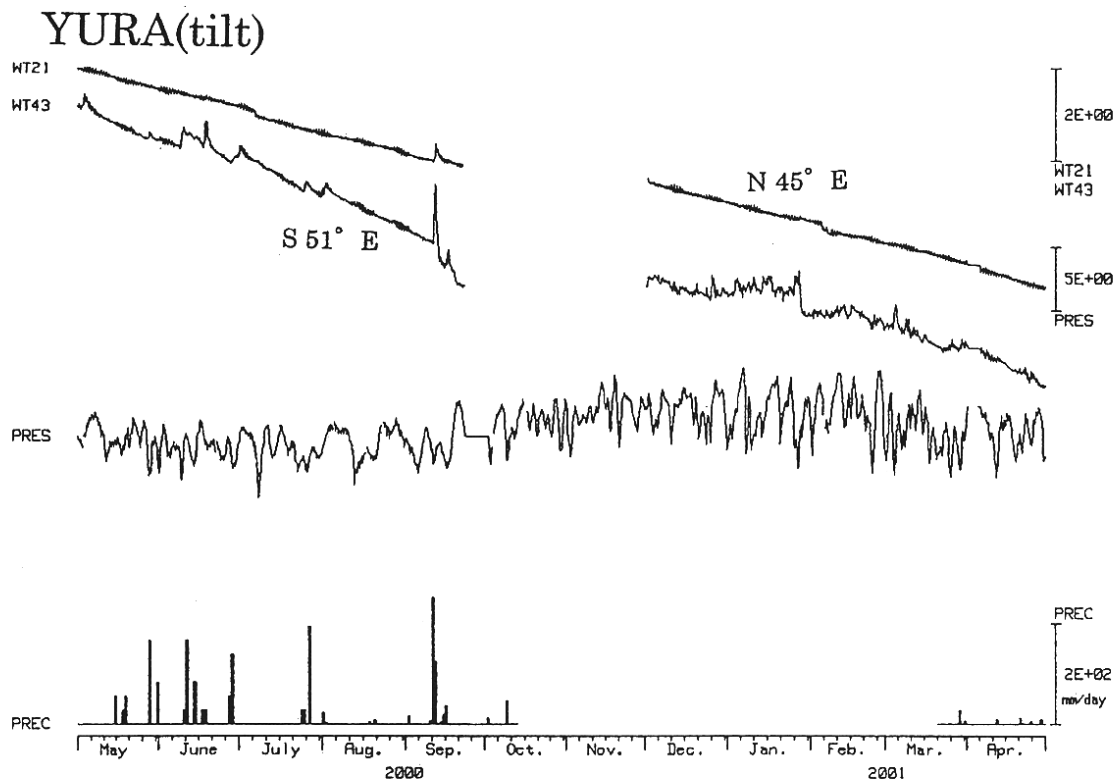
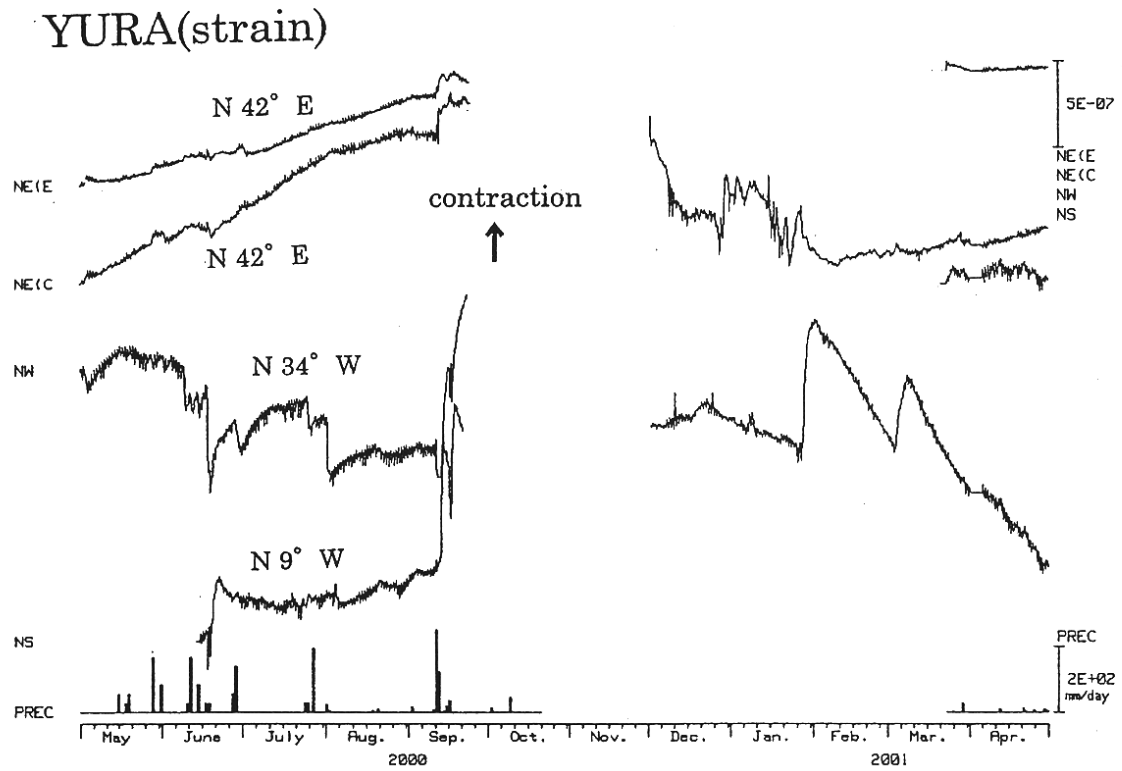


# OSAKAYAMA



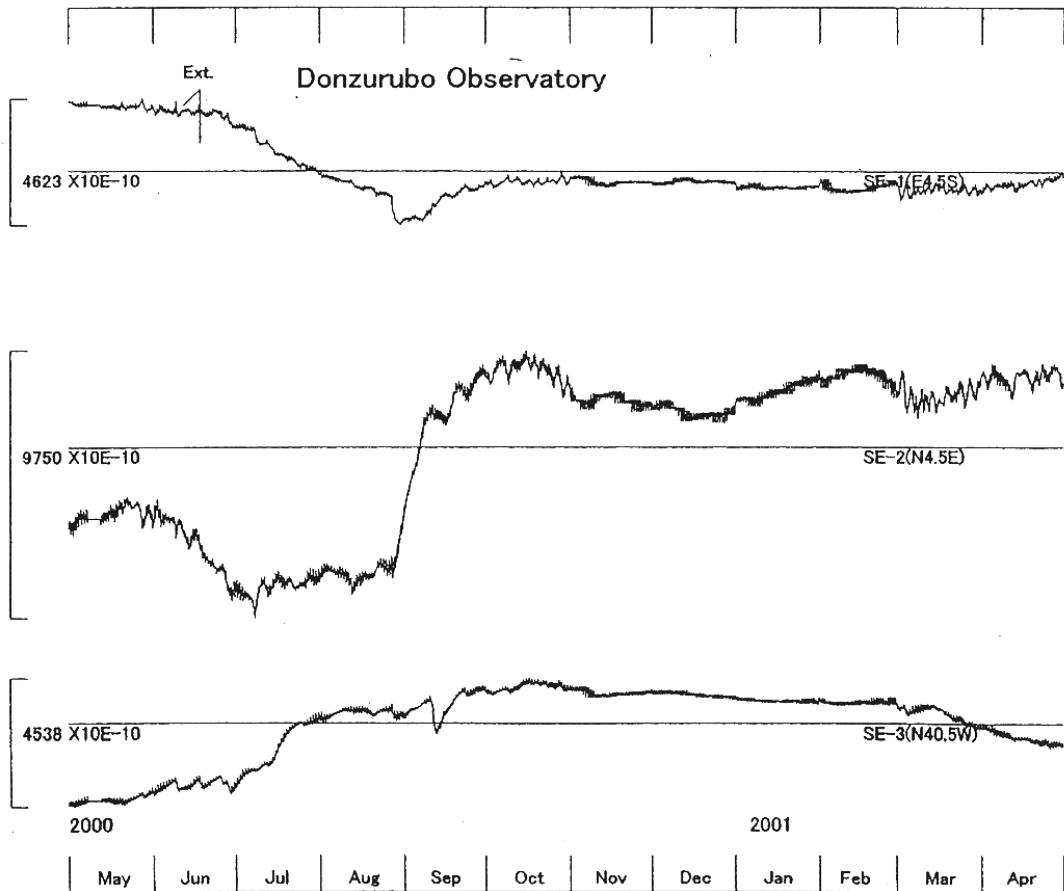
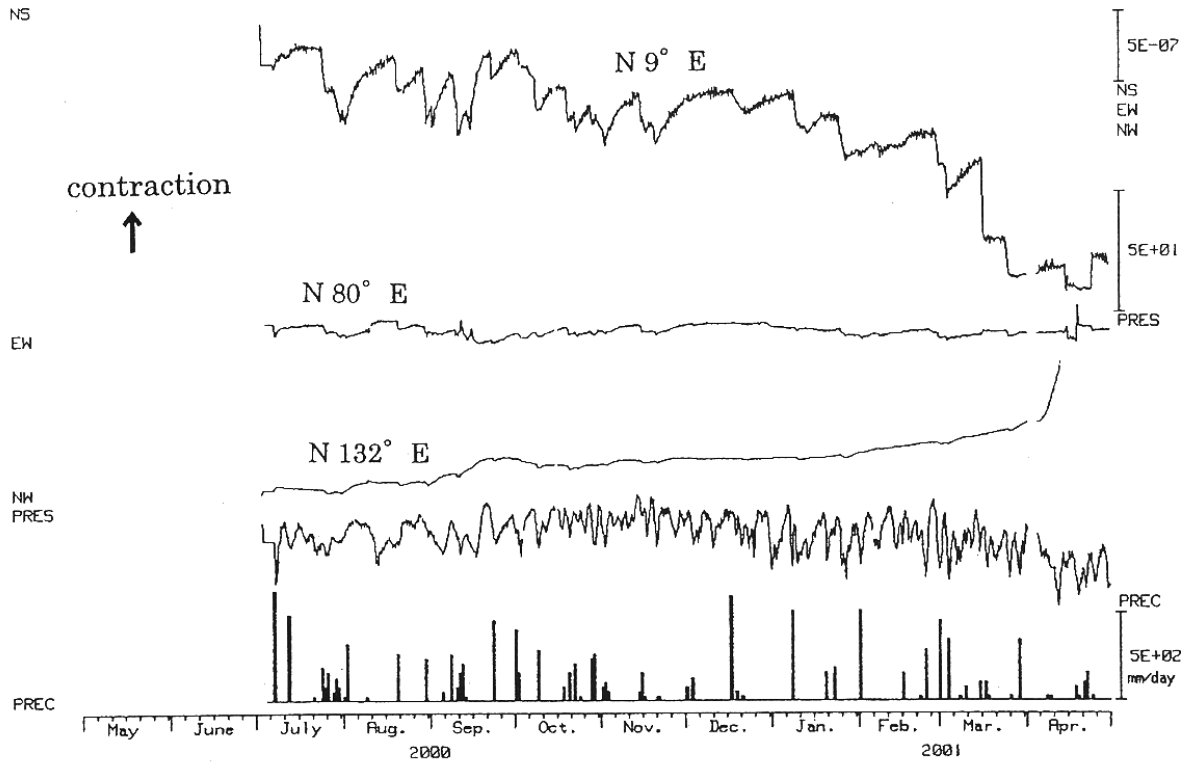
第4図 天ヶ瀬におけるひずみ変化・傾斜変化・日雨量と逢坂山におけるひずみ変化（2000年5月～2001年4月）

Fig.4 Strain change, tilt change and daily precipitation at Amagase and Strain change at Osakayama (May 1, 2000 - April 30, 2001).



第5図 由良におけるひずみ・傾斜変化と気圧 (2000年5月~2001年4月)  
 Fig.5 Strain change, tilt change and barometric pressure at Yura (May 1, 2000 - April 30, 2001).

# KISYU



第6図 紀州・屯鶴峯におけるひずみ変化 (2000年5月~2001年4月)  
Fig.6 Strain changes at Kishu and Donzurubo. (May 1, 2000 - April 30, 2001).